

# 南信州広域連合第3回広域連合会議 結果報告

日時：令和7年6月17日(火) 15:00～15:45

場所：飯田合同庁舎 講堂

## 【出席者】14市町村長、副管理者

〔長野県建設部リニア整備推進局〕室賀局長  
〔JR東海中央新幹線長野工事事務所〕小池所長  
〔南信州地域振興局〕岩下局長  
〔飯田建設事務所〕折井所長  
〔飯田保健福祉事務所〕岩本所長  
〔下伊那郡町村会事務局〕岡庭局長  
〔飯田広域消防〕下平消防長、新井消防次長兼総務課専門幹、熊谷消防次長兼総務課長  
〔環境センター〕松下事務長  
〔事務局〕吉川事務局長・滝沢事務局次長兼総務課長  
乾地域医療福祉連携課長兼医療福祉連携係長・壬生広域振興係長  
渡邊広域振興係企画調整担当専門主査・熊谷庶務係長・幾島庶務係主事・久保田庶務係主事

## 1 開会…15:00

## 2 広域連合長挨拶

リニア駅の工事の中で、土曾川橋梁のケーソンに要対策土を活用することについて、6月6日に飯田市とJR東海との間で確認書を締結した。住民の皆さんから、説明会の中で心配される意見などが出ていたがそういった意見をできる限り取り入れた内容で確認書を結んだつもりである。確認書の別紙には県の指摘事項や助言の内容を取り入れている。また、今までの説明会の中で例えば水質検査はいつまでやるのかというような意見もあったため、要対策土を存置している間はやるというような形で確認をした。また、損害賠償についてもJR東海が責任を持って対応するという内容も盛り込んだ。

確認書の内容が履行されているかの確認や、水質検査の数値の確認については、住民代表や有識者といった方々に入っていただくような組織を年内を目途に立ち上げて、今後チェックしていくという体制も整えたいと考えている。翌週から要対策土の運び込みが始まっている。JR東海からも報告があるが、住民の皆さんや町村部の皆さんも関心の高いことと思われるため、私の方からもご報告申し上げる。

## 3 協議・報告事項

### (1) リニア中央新幹線について

ア 県リニア整備推進局から【長野県リニア整備推進局 室賀局長】～資料 No.1～

各市町村の進捗状況の説明を行う。

6月9日に長野県駅(仮称)工区の土曾川橋梁への要対策土の搬入が開始されたが、県としてJR東海がしっかり対応していくところは確認をしていく。要対策土の搬入に係る工事には、建設部として技術的な部分の確認を行っていく。

5月21日、豊丘村で要対策土の活用に関する説明会が行われた。

今後の予定では7月2日に大鹿村で、7月10日に中川村で対策協議会を予定している。また、日程は調整中だが、リニア中央新幹線建設促進長野県協議会総会の開催を予定していること、それを踏まえて知事とJR東海社長との会談を予定していることの説明が行われた。

今年度はリニアサロンという形で、リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議の会談の中でJR東海と議論する機会を沿線市町村とも設けたいと考えている旨の説明が行われた。

#### イ JR東海中央新幹線長野工事事務所から(小池所長)

5月20日に豊丘村のリニア対策委員会で、村内の工事概要及び各工期における工事の進捗状況、トンネル工事により発生する要対策土の活用について説明した。翌日の5月21日に要対策土の活用に関する説明会を開催し、坂島工区の工事の進捗状況やトンネル発生土、要対策土の発生について説明した。

喬木村から飯田市にかけての橋梁区間の5月までの非出水域の工事と河川内の工事が完了した。

6月6日に土曾川の工事について飯田市と確認書を締結した。6月9日に3つある協脚のうち、B-1橋脚において要対策土の活用を開始した。

5月23日に高森町民体育館で開催された「第7回しごとみらいフェア」にブースを出展し、事業内容やリニア中央新幹線の内容、長野工事事務所の業務内容などについての紹介をした。

5月28日に飯田市立飯田東中学校で開催された「繋・未来フェス2025」にブースを出展し、事業内容などを紹介した。

6月2日に豊丘村内の小学生を対象との6年生約60名を対象として、水沢工区の工事現場見学会をJVの協力のもと、豊丘村と共同で開催した。

### (2) 看護師等確保対策就学資金貸与者の決定について【乾課長】～資料No.2～

#### ア 決定事項

貸与決定者12人(応募者17人)

返還猶予申請者39人(全員)の返還猶予を認める。

返還免除申請者5人(全員)の返還免除を認める。

#### イ 選考審査会

日時 令和7年5月23日(金) 19時00分から

場所 広域連合事務センター

選考委員 10名(医療福祉専門部会員、副管理者、医師会、包括医療協議会、看護協会、事務局)

※そのほか、審査の状況について資料を基に説明がなされた。

(主な意見等)

喬木村長：大変大勢の方にご応募いただき12名を内定した。今まで16名が途中で学校をやめてしまい奨学金の対象から取り消しとなっているため、一定程度そういったことも想定しながらの決定となった。今年は保健師を希望すると書いてくれた学生さんが多かったため皆さん期待して欲しい。

(3) 信州木曾専門学校地域特定推薦入試対象者の選考について

信州木曾看護専門学校が木曾地域とその周辺地域に貢献する看護師を育成するために指定校推薦とあわせて設けている推薦枠入学。飯田下伊那地域では、南信州広域連合が区域内から1名を推薦することができることとなっている。

募集案内 圏域内8校の高等学校長宛に発送済み

受付期間 8月1日(金)から8月31日(日)

提出先 南信州広域連合事務局地域医療福祉連携課

推薦者選考会議 9月の第1週金曜日を予定。会場は南信州広域連合事務センター

選考方法 書類審査及び口述考査(面接15分)

選考委員 南信州広域連合副管理者、医療福祉専門部会長(喬木村長)、飯伊地区包括医療協議会事務局長、南信州広域連合事務局長、南信州広域連合地域医療福祉連携課長

推薦決定通知 9月19日(金)までに申込者へ結果を通知

→質疑等なし

(4) 大阪万博への民俗芸能団体への出演について

大阪関西万博で、南信州民俗芸能フェスティバルとして民俗芸能の上演をする。

テーマ 四季を通じた南信州の民俗芸能。

開催日時 令和7年7月13日(日)

会場 日本国際博覧会フェスティバル・ステーション。

主催 南信州民俗芸能継承推進協議会

協賛 南信州民俗芸能パートナー企業各社。

参加団体 高森町大島山獅子舞保存会、阿南町和合念仏踊り保存会、飯田市木沢霜月祭り保存会の3団体。

プログラム 春夏秋冬ごとに分けて映像上映を含めた4時間の公演を実施予定

※5月28日に長野県庁で報道発表を実施。各団体の代表者が出席し、万博へ出演することについて報道発表した。当日は5社の報道機関が取材に訪れた。

→質疑等なし

#### (5) 飯田広域消防から

ア 熱中症予防・焚き火火災予防運動のリーフレットについて

6月21日(土)に、管内のJAの店舗で熱中症と焚き火火災予防啓発広報を実施する際に配布するリーフレットを作成した。熱中症による搬送患者が非常に多くなることが予想されることから、それを防ぐため、熱中症の予防のポイントを抑えたもの。また、飯田広域消防管内は無届のものを含め焚き火による火災が非常に多くなっているため、一年を通じて焚き火火災の予防を行う。

イ 寄付の申し出について

5月23日に勝間田建設株式会社の会長、社長、常務営業部長が来庁され、同日付で消防本部に500万円の寄付をいただいた。また、株式会社セイコーアドバンスからも、7月中旬に消防本部に企業版ふるさと納税として300万円の寄付をしたいとのことをお話いただいている。

→質疑等なし

#### (6) 旧桐林クリーンセンター解体工事での事故について

桐林クリーンセンター解体作業中の墜落事故について事故の概要を説明。

ア 発生日時

6月2日(月)午前9時15分頃

イ 発生場所

旧切林クリーンセンター解体工事現場

ウ 請負業者

熊谷・シブキヤ特定建設工事共同企業体

エ 事故概要

作業員1名が6階フロアから5階フロアに3.7メートル墜落した。負傷者は二次下請けの解体作業員の40代男性。救急隊到着時は意識鮮明、麻痺などの症状はなし。搬送先の病院にて腰椎横突起骨折及び頭部切傷を確認。1週間の入院が必要で、全治2カ月の診断を受けた。医師の見解では後遺症の心配はほぼなし。当該作業員は6月5日に退院し、6月6日より復帰。交通誘導や軽作業に従事している。

オ 事故の原因と状況

2階フロアでガス切断の準備作業中、工具を取りに6階へ向かったところ、フロア歩行中に、敷き詰められていたグレーチングのH鋼との点付け溶接が外れている箇所に乗ってしまい、グレーチングが天秤のように傾き、そのまま5階フロアへグレーチン

グとともに墜落した。さらにグレーチングは隙間を通過して4階フロアまで落下した。

点付け溶接が外れた原因は、重機による解体作業によりグレーチングが載っているH溝が歪んでしまい、その影響でグレーチングの点付け溶接が外れてしまったことによるもの。

墜落制止用器具（安全帯）は装着していたが、通路を移動中だったため安全フックは取り付けていなかった。

#### カ 事故後の対応・再発防止策

この事故を受け、再発防止策が確立されるまでの間、工事を一時中断することとした。再発防止策として以下の4点を講じた。

(ア) 危険個所への立入禁止明示

(イ) 作業前に作業個所の点検

- ・作業個所および通路への安全設備の設置
- ・作業終了時に立入禁止区域とする。

(ウ) 作業指揮者の指示により作業

- ・自分の判断で行動しない。

(エ) 作業内容の確認及び危険個所の周知

以上の再発防止策を講じ、6月3日(火)に竜丘地域自治会の三役に対し、事故発生の経緯と再発防止策を報告し、6月4日(水)からの作業の再開について了承をいただいた。環境技術センター立ち会いのもと、作業現場の点検を十分に行い、作業員全員へ再発防止策の徹底を指示した上で6月4日(水)13時より作業を再開した。

#### キ 事故発生からの環境センターの対応

6月2日(月)

10時6分 事務局長より、4メートルの高さから作業員が墜落したとの第1報。詳細確認の指示を受け、関係機関への連絡及び情報収集を開始。

10時25分 2名の職員が現場へ向かい10時50分現場到着。

～12時25分 警察署、労働基準監督署、請負業者、施工管理を委託する環境技術センターと現場検証を実施。

6月3日(火) 竜丘地域自治会の三役に事故発生の経緯と再発防止策について報告。

6月4日(水) からの作業の再開について了承をいただいた。

6月4日(水)

13時00分 作業再開。

#### (主な意見等)

連合長：労務災害で、基準監督署に立ち入られるという状況になり、再発防止策を講じ、工事業者にはくれぐれも安全に作業するというのを改めて申したとのこと。こういったことがないように解体作業を進めていければと思う。

(7) その他

飯伊建設業協会からの車いす寄贈について【乾課長】～資料 No.6～

一般社団法人飯伊建築協会から南信州広域連合に車いすが寄贈された。広域連合に対する車いすの寄贈は今年度で24回目(54台)になり、5月22日に飯田市役所で寄贈式が行われ、吉川昌利飯伊建築業協会会長からティルト・リクライニング車いすが2台寄贈された。寄贈された車いすは、広域連合が入所調整行っている圏域内の特別養護老人ホーム14施設に順番に配置しており、今年度は「特別養護老人ホーム喬木荘」および「特別養護老人ホーム笑みの里」に一台ずつ配置した。同日飯田建設業クラブから飯田市に対しても車いすが寄贈された。

介護のしごと相談会について【乾課長】～配布資料～

6月28日(土)に開催。令和6年度から当日会場に来られない方へ遠隔相談対応できる環境を用意している。5年度は申し込みはなかったが、今年度は問い合わせが1件あった。今回は、障害者施設にも呼びかけしたところ、5つの事業者から応募いただき、予定した25事業所に対し22の事業所に参加いただくこととなっている。毎回20～30人の来場者があり、平均すると2名程度が就業につながっている。

4 長野県から

(1) 南信州地域振興局【岩下局長】～配布資料～

広域交通網が整備されていく中でこの地域の魅力を発信していくことを目的に峰竜太氏が出演しているラジオ番組を活用し南信州の地域の魅力発信の機会を2回確保した。番組は、文化放送と県内の信越放送、名古屋の東海ラジオで放送しており聴取人口は16万人以上になる。テーマは大阪関西万博に民俗芸能が出演することの宣伝を兼ねて、和合念仏踊りの保存会の方にご協力いただき、民俗芸能の紹介をした。また、南信州地域が日本一だと思われる焼肉店の話や市田柿の話をしつつ、生菓子も南信州地域が一大産地ということで、天恵製菓に協力をいただき、情報提供してきた。放送日は6月21日と28日。これをいい機会に引き続き様々な媒体を活用して地域の発信をしていきたい。

(2) 飯田建設事務所【折井所長】

6月19日に下伊那土木振興会による公共土木事業整備推進に関する建設部長提言が行われる。当日は事業担当する関係部課長全員出席予定のため、要望や意見交換させていただきたい。

(3) 飯田保健福祉事務所【岩本所長】

飯伊圏域の医療施設従事医師数について、人口10万人あたりの医師の人数は10年前と比較して増えているが、これは当地域の人口が毎年2,000人程度の規模で減少してい

ることによることが説明された。また、医療圏別の医師数についても上伊那、飯伊、木曾地域を含む南信地域が少ない状況にある。特に飯伊地域については、実感として厳しい状況にあると感じている。

医師の確保のために県では医師確保対策事業として8億円を計上しており、そのうち奨学金で4億円を130名から140名の奨学生に貸与している。また、奨学金を受けた医師を飯田市立病院に9名、県立阿南病院に7名の計16名派遣している。

(主な意見等)

阿智村長：定着拡大事業タスクシフトについて詳しく教えていただきたい。

岩本所長：詳しく存じないため、調べたうえで後日お話ししたい。

根羽村長：医師の派遣で、飯田市立病院に9名、県立病院に7名の方が派遣されているということで大変ありがたいが、何年くらいの期間で派遣されるのかを教えていただきたい。また、医療圏別医師数のところで、岩本所長が話していたように、実数は飯伊の方が高いが、実際は上伊那の方が充実しているということは、飯伊はエリア広いが、上伊那はコンパクトにまとまっていることが要因と理解すれば良いか。

岩本所長：上伊那の方はエリアが狭い点や諏訪地域・松本地域で受診の多い印象があるが、飯田の場合は飯田内で受診が多い。

医師が何年いるのかというのは医局の人事次第だが、通常は2年程度でローテーションしている。令和5年は4名、令和6年は9名とかなりの人数が出たり入ったりしている。